

# 31 鉄道・道路など都市インフラの整備

## (1) 公共交通を充実する

### ●区内交通の現状と都市交通マスタープラン

区内の交通インフラは、整備が進められてきているものの、交通渋滞や南北方向の交通などに様々な課題がある。

また、道路網の整備が未完了なことから、公共交通の不便な地域が依然として存在している。道路の整備率は、都市計画道路が約5割、生活幹線道路が約3割であるなど、交通の円滑化が図られておらず、解決すべき課題は多い。

今後、高齢者が増加していく中で、円滑な移手段の確保が求められている。その一方で環境問題の高まりなどから、自動車交通に過度に依存しない交通体系の確立も求められている。

区は、20年3月に練馬区都市交通マスタープランを策定し、だれもが快適に移動できる交通環境の実現を目指して、様々な交通問題の解決に取り組んでいる。

### ●都営大江戸線

都営大江戸線は、光が丘地区の開発に伴う大量輸送機関として、また西武池袋線と東武東上線との間に残る交通不便地域の解消などに寄与するものとして計画された鉄道路線である。

この路線は、放射部と環状部からなっている。12年12月には現行の営業区間が全線（汐留駅は14年11月開業）開通した。これにより、区内から六本木、大門方面へは乗換えがなくなるとともに、都心・副都心へのアクセス利便性が向上した。

光が丘駅～大泉学園町までの延伸は、首都圏の鉄道ネットワークを充実・強化するうえで欠くことのできない路線であり、都区部にわずかに残る鉄道駅から離れた地域を大きく改善することができる。また、豊かなみどりが残る地域に、都市の利便性を兼ね備えることで、延伸地域のポテンシャルを最大限引き出し、良好な住宅都市を形成することができる。27年7月、都は「広域交通ネットワーク計画について」を策定し、整備について優先的に検討すべき路線（都内5路線）とした。28年4月、国の諮問機関である交通政策審議会は「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」の中で、鉄道ネットワークの充実に資する24のプロジェクトのうち、進めるべき6つのプロジェクトの一つとして評価した。同区間の延伸は、国および都から整備に向けた明確な位置づけを得ている。

区は、延伸の早期実現を目指し、事業予定者である都との協議や新駅予定地周辺を含む延伸地域のまちづくりに取り組んでいる。また、実現には積極的に区の役割を担う必要があることから、延伸に資するために活用する「大江戸線延伸推進基金」を23年4月に設置し、積立てを行っている。さらに、区議会、地域住民と共に「大江戸線延伸促進期成同盟」を設立し、促進大会開催や事業予定者である都に対し、早期着工に向けた働きかけを行っている。

JR武蔵野線東所沢駅までの延伸については、新座市等で構成する「都市高速鉄道12号線延伸促進協議会」に加盟し、要請活動等を行っている。

### ●西武池袋線

踏切による慢性的な交通渋滞や踏切事故の抜本的な対策として、西武池袋線の高架化に取り組んでいる。あわせて、複々線化事業も、西武鉄道（株）により進められてきた。

昭和46年1月に桜台駅～石神井公園駅付近間の都市計画が決定されて以降、順次事業に着手した。平成6年12月には練馬高野台駅が開業し、利便性が高まった。また、15年3月までに桜台駅～練馬高野台駅付近間の高架複々線化が完了した。

一方、練馬高野台駅～大泉学園駅付近間については、17年6月に都市計画が決定（変更）され、19年5月に事業着手し、27年1月には高架化が完了した。その結果、9か所の踏切がなくなり、鉄道により隔てられていた地域が一体化するなど、安全で快適なまちづくりに大いに寄与した。また、この事業に併せて練馬高野台駅～石神井公園駅間が複々線化され、25年3月に西武池袋線・有楽町線と東急東横線・横浜高速鉄道みなとみらい線との相互直通運転が開始された。

### ●西武新宿線

西武新宿線は、区南西部を東西方向に走る鉄道路線である。区内には、上石神井と武蔵関の2駅があり、また上井草、東伏見両駅の2駅が練馬区に近接していることから、多くの区民が西武新宿線を利用している。

この路線は、区内全区間で線路が地平を走っており、南北方向の道路とは、すべて踏切による平面交差となっている。そのため、特に朝夕のラッシュ時には踏切付近などで慢性的に交通渋滞が発生している。

都は、16年6月に策定した踏切対策基本方針において鉄道立体化の検討対象区間としていた井荻駅～東伏

見駅付近を、20年6月に鉄道立体化の可能性を検討していく連続立体交差化の事業候補区間として位置づけた。区では各駅周辺のまちづくりに取り組むとともに、27年1月には、区民、区議会、区が一体となって「西武新宿線立体化促進協議会」を設立し、鉄道立体化の早期実現の要請活動を都へ行った。都は、28年3月に井荻駅～東伏見駅付近を社会資本総合整備計画に位置付け、新規に着工を準備する区間として、構造形式や施工方法等の検討を進めている。29年4月には、国が着工準備箇所として同区間を採択し、現在国の補助金を受けながら検討が進められている。

〔各駅の1日平均乗降客数〕 (単位：人) 28年度

駅名	乗車	降車	総数
西武池袋線			
江古田	16,544	16,589	33,133
桜台	7,098	7,064	14,162
練馬	63,280	64,538	127,818
中村橋	19,767	19,645	39,412
富士見台	13,618	13,406	27,024
練馬高野台	13,635	13,432	27,067
石神井公園	39,552	39,496	79,048
大泉学園	43,480	43,279	86,759
保谷	30,375	30,297	60,672
西武豊島線			
豊島園	7,028	6,952	13,980
西武新宿線			
上井草	10,398	10,435	20,833
上石神井	22,147	22,055	44,202
武蔵関	15,375	15,029	30,404
東伏見	12,399	12,306	24,705
東武東上線			
東武練馬	30,107	30,139	60,246
下赤塚	8,181	8,305	16,486
成増	29,475	29,672	59,147
東京メトロ有楽町線			
小竹向原(※)	48,535	45,988	94,523
氷川台	19,724	19,534	39,258
平和台	21,241	21,267	42,508
地下鉄赤塚	18,608	18,305	36,913
地下鉄成増	25,246	25,581	50,827
東京メトロ副都心線			
小竹向原(※)	40,389	37,828	78,217
西武有楽町線			
小竹向原(※)	63,496	68,711	132,207
新桜台	4,511	4,264	8,775
都営大江戸線			
新江古田	13,623	13,422	27,045
練馬	39,212	39,313	78,525
豊島園	5,822	5,778	11,600
練馬春日町	10,794	10,741	21,535
光が丘	30,739	30,725	61,464

※小竹向原駅：

①西武鉄道：直通連絡客を含む。

②東京メトロ：直通連絡客を含み、有楽町線・副都心線間の乗換旅客を除く。

資料：西武鉄道(株)、東武鉄道(株)、東京地下鉄(株)、東京都交通局

## ●東武東上線

東武東上線は、川越街道と平行して、練馬区と板橋区との区境を走る鉄道路線である。区内に駅はないものの、東武練馬、下赤塚、成増の3駅は、練馬区と近接していることから、区民の利用が多く、重要な交通手段の一つとなっている。

## ●東京メトロ有楽町線・副都心線

東京メトロ有楽町線は、区内で最初の地下鉄として昭和58年6月に池袋駅～営団成増駅(現地下鉄成増駅)間が開業した。池袋駅から先の都心部とつながることで、区北東部地域から都心方面への交通利便性が飛躍的に向上した。

平成6年12月には、西武有楽町線が練馬駅まで開通し、10年3月に西武池袋線との相互直通運転が実現するなど、利便性の向上とともに西武池袋線の混雑緩和に大きく寄与している。20年6月には、小竹向原駅から池袋駅を経由して渋谷駅に至る東京メトロ副都心線が開業し、25年3月に、東急東横線・横浜高速鉄道みなとみらい線との相互直通運転が実現するなど、都心部へのアクセスなどの利便性が更に向上している。

## ●鉄道駅のバリアフリー化

公共交通機関を利用する際の移動の利便性や安全性の向上を図ることを目的に、12年5月、行政、公共交通事業者および国民の役割を明確にする「交通バリアフリー法」が施行された。区内鉄道駅のバリアフリー化を促進するため、区では、14年1月に「練馬区鉄道駅エレベーター等整備事業補助要綱」、18年7月には「江古田駅鉄道駅総合改善事業費補助交付要綱」を策定し、大泉学園駅など区内5駅のエレベーター等の整備費用の一部補助を実施してきた。23年8月には、区内全21駅において、駅出入口からホームまでのバリアフリー化された経路が1ルート確保された。

区は、更なるバリアフリー化の促進のため、引き続き、鉄道事業者に整備を働きかけていく。

## ●エイトライナー

都内の鉄道は、山手線から放射方向の路線は整備されているが、環状方向に各鉄道を結ぶ路線は整備されておらず、各路線の連絡は、主にバス交通にゆだねられている。

区では、環状8号線を基本ルートとする新しい交通システムについて、関係区との研究を始め、5年10月に「エイトライナー構想」を取りまとめた。この構想を実現することにより、①環状方向の移動時間が短縮される、②沿線の拠点整備に大きく寄与する、③羽田空港へのアクセスが向上する、などの効果が期待され



## (2) 道路交通ネットワークを形成し、沿道を整備する

### ●区内の道路事情

区内の道路は、それぞれの機能や役割に応じて、自動車専用道路、幹線道路（都市計画道路等）、生活幹線道路、主要生活道路、生活道路に分類される。

自動車専用道路としては、関越自動車道、東京外かく環状道路、骨格となる幹線道路として、放射6号線（青梅街道）や放射7号線（目白通り）、放射8号線（川越街道）、環状7・8号線、補助的な幹線道路として、補助76号線（新青梅街道）、補助134号線（笹目通り）、補助229号線（千川通り）などがある。

骨格となる幹線道路の整備が比較的進捗している一方で、区西部地域の都市計画道路の整備率は未だ約3割であり、さらなる整備が必要である。

生活道路として役割を果たす区道は、かつて農道であったなど、狭く曲がったものが多く、幅員も4.5m未満の道路が総延長の40.9%と半分近くを占めている。

### ●都市計画道路の整備状況

28年度末現在、区内の都市計画道路は37路線あり、計画延長は108.4kmである（都市高速道路および鉄道附属街路を除く。）。整備状況は、事業完了が54.6km（50.3%）、事業中が10.9km（10.0%）、未完了は43.0km（39.6%）である。

都と特別区および26市2町は、28年度～37年度の10年間で優先的に整備すべき路線を示した「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」を28年度末に公表した。区内では、11路線（20区間）、延長18.5kmが指定されており、引き続き都と連携して整備を着実に進めていく。

### 〔事業中の主な都市計画道路〕

29年4月1日現在

路線名	事業状況
放射7号線	大泉学園町二丁目～西大泉五丁目 2,000 m工事中、一部用地取得中
放射35号線	早宮二丁目～北町五丁目 1,330 m工事中、一部用地取得中
放射35・36号線	板橋区小茂根四丁目～練馬区早宮二丁目 1,970 m用地取得中
補助172号線	早宮三丁目～早宮四丁目 390 m用地取得中
補助229号線	関町南一丁目～上石神井一丁目 430 m工事中
補助230号線	大泉町三丁目～大泉町二丁目 850 m用地取得中、一部工事中 大泉学園町七丁目～大泉町三丁目 1,250 m用地取得中
補助233号線	大泉学園町四丁目～大泉学園町八丁目 500 m用地取得中
外郭環状線の2	石神井町八丁目～東大泉二丁目 1,000 m用地取得中
補助132号線	石神井町三丁目～石神井町一丁目 415 m工事中
補助232号線	石神井町一丁目～石神井町三丁目 155 m工事中
補助235号線	北町五丁目～北町七丁目各地内 182 m工事中
区画街路1号線	早宮三丁目～練馬二丁目 230 m設計中

### 〔自動車保有台数の推移〕（単位：台） 各年3月31日現在

年次	登録自動車	届出自動車等	
		軽自動車等	原付
27	163,220	47,148	30,550
28	162,113	47,231	29,312
29	160,946	47,331	28,076

資料：登録自動車は、練馬自動車検査登録事務所

### ●東京外かく環状道路

東京外かく環状道路は、都心から約15km圏域を環状に連絡する延長約85kmの道路であり、首都圏の渋滞緩和、環境改善や円滑な交通ネットワークを実現する上で重要な道路である。現在、区内においては、埼玉県境から関越自動車道までが供用中である。関越自動車道から東名高速道路の区間については、19年4月に高架方式から地下方式に都市計画が変更され、21年5月に事業化した。交通渋滞など、区内における交通問題の抜本的改善のため、事業者である国や高速道路会社に対し、早期完成を求めている。

### ●都市計画道路沿道地域のまちづくり

都市計画道路の整備にあわせ、沿道の土地利用や周辺環境の変化に対応したまちづくりを進めている。

#### 1 大江戸線延伸地域

都営大江戸線延伸の導入空間となる補助230号線は、

土地区画整理事業をはじめとした区の精力的な取組により、これまでに、笹目通りから土支田通りの区間を交通開放している。現在は土支田通りから大泉学園通りの区間で都が事業を進めている。区は、大江戸線延伸を見据えたまちづくりを進めており、28年10月に大泉町三丁目地区地区計画の都市計画決定を行った。

引き続き、沿道のまちづくりを進めるとともに、新駅予定地周辺においては、都市生活を支えるサービス施設の立地を促進し、良質な都市環境に資するまちづくりの具体化に取り組んでいく。

## 2 外かく環状道路沿道地区

東京外かく環状道路は国が、地上部街路である外郭環状線の2は都が事業を進めている。区では、区西部地域の南北を繋ぐこの重要な都市計画道路の整備を良質な都市空間の創出の機会と捉え、道路整備に併せたまちづくりを進めている。

大泉JCT周辺では、27年7月に、重点地区まちづくり計画を策定し、現在その実現に向けた検討を行っている。

## 3 その他の都市計画道路沿道周辺地区

放射35号線沿道周辺(平和台・早宮・北町)地区では、地区計画の策定に向けて、地区計画検討会で協議・検討を進め、地区計画検討会案が作成された。地区計画検討会案のアンケート調査結果等を踏まえて、地区計画の作成を進めている。

放射36号線等沿道周辺(羽沢・桜台・氷川台・平和台・早宮)地区では、重点地区まちづくり計画の策定に向けて、まちづくり協議会で協議・検討を進め、構想案を作成した。

### ●沿道地区計画

沿道地区計画は、幹線道路における自動車騒音から住民の生活を守るため、沿道を騒音に強い土地利用・建物構造にする規制・誘導を行うための制度である。

沿道地区計画決定地区内では、建築を行う際に、後背地への遮音効果を高めるために、間口率(※)の最低限度、高さの最低限度および防音等の構造に関する制限等を受けるが、防音改良工事や建替工事に対しては、都からの補助を受けることができる。

現在、区内の環状8号線の一部、環状7号線全線、笹目通り全線の沿道地区において決定している。

$$\text{※間口率} = \frac{\text{建築物の幹線道路に面する部分の長さ}}{\text{敷地の幹線道路に接する部分の長さ}}$$

### ●生活幹線道路の整備

都市計画道路を補完し、地区の交通の主要な動線となる道路を「生活幹線道路」として位置づけ、昭和63年5月に整備計画を策定した。これは均衡のとれた道

路網を形成し、区民生活の安全性・利便性の向上と良好な市街地の形成に寄与することを目的としたものであり、延長約110kmを計画した。このうち区道は、延長約94kmであり、28年度末現在、延長約24kmの整備が完了した。

区では、計画した路線のうち延長約5kmで事業を実施するとともに延長約4kmを早期に整備を行う必要性が特に高い路線として、整備促進路線に指定している。

### 【主要道路の自動車交通量(12時間値)】 (単位:台)

路線名 (観測地点)	観測年度		
	11	17	22
環状7号線 (羽沢2丁目)	37,553	39,568	35,225
目白通り (豊玉北4丁目)	33,855	34,058	30,908
川越街道 (旭町3丁目)	23,853	23,728	21,803
笹目通り (谷原3丁目)	35,602	35,684	31,312
新青梅街道 (関町北4丁目)	14,841	13,393	10,971
青梅街道 (関町南1丁目)	30,713	31,695	27,641

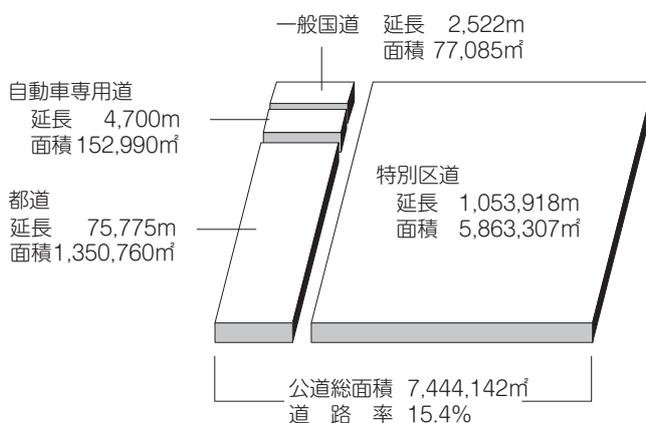
注:台数は、7時から19時までの秋の1日(平日)の測定値  
資料:「交通量調査報告書」(東京都建設局)

### ●生活道路

区では、一定の条件に合った私道などを区道として認定する公道化を進めている。28年度に認定した路線は64件、延長5,255m、面積35,115㎡であった。

### 【練馬区の道路の現状】

29年4月1日現在



資料:一般国道、自動車専用道、都道は「東京都道路現況調査平成28年版」(東京都建設局)

### (3) 快適な道路環境を整備する

#### ●自転車の適正利用のための環境整備

自転車は日常生活に必要な不可欠なものとなっており、適正利用のできる環境を整備していく必要がある。

区では、昭和49年から現在までに区内の駅周辺などに自転車駐車を設置してきた。

一方、道路上への自転車の放置については、歩行者の安全な通行を防げるほか、災害時などの救助活動にも支障となることから、放置禁止区域の指定を行い、放置自転車の撤去を行っている。

平成23年3月には、「練馬区自転車利用総合計画」を改定し、新たな課題について取り組むこととした。

#### 1 駅周辺の放置自転車等の状況

29年5月の調査では、駅周辺の午前中の放置自転車は695台で、過去最大だった7年（13,142台）の約19分の1に減少した。

一方、午後も減少はしているが、午前の約2倍（1,372台）の自転車が放置されていた。

#### 2 自転車駐車の整備

区では4年7月から、利用者が使用料として費用の一部を負担する有料化を進めた。

通勤、通学による午前中の放置自転車は大幅に減少した一方で、買物客などによる午後の放置自転車の問題が顕在化している。買物客等を対象にした自転車駐車の整備を店舗や商店会等に要請するとともに、短時間無料の区立自転車駐車の整備を進めている。

現在、区内に84か所約42,200台分（29年5月1日現在）の自転車駐車を設置しており（（公財）自転車駐輪場整備センター等の運営を含む。）、うち10駅19か所が短時間無料の公営自転車駐車場となっている。

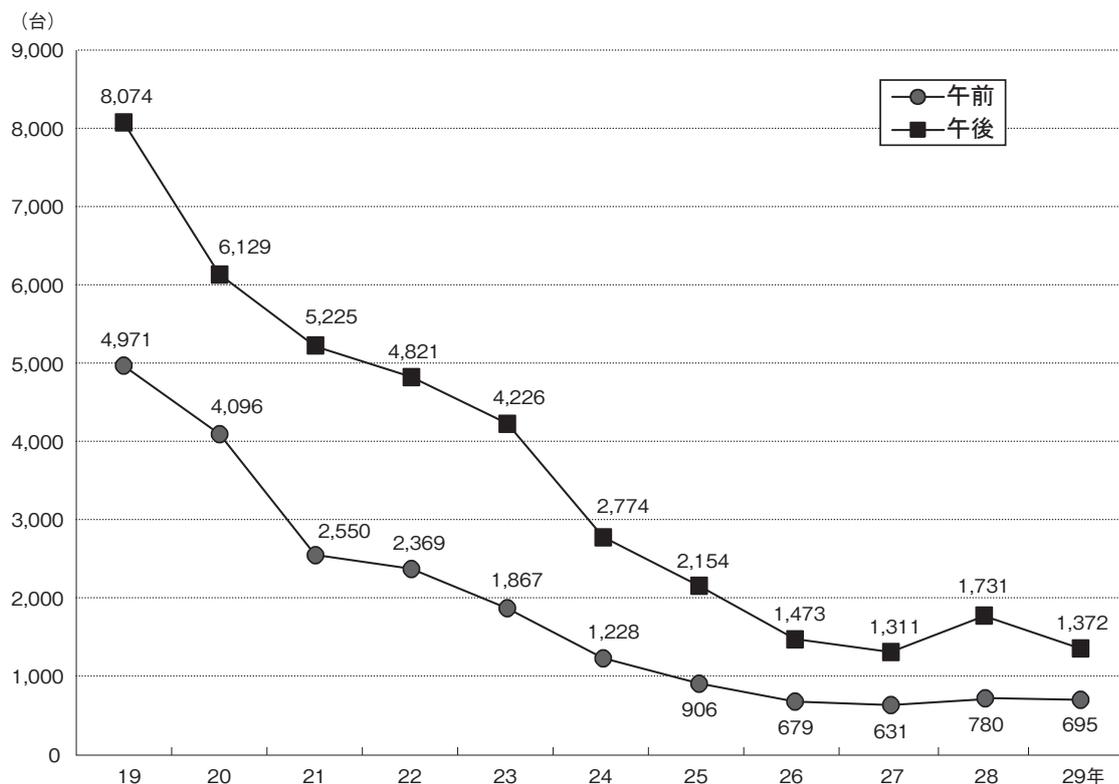
#### 3 ねりまタウンサイクル（レンタサイクル）

区が駅周辺に設置した施設で自転車を貸し出し、1台の自転車を複数の人が利用することにより、実質的な駐車台数を減少させ、放置自転車を減らすものである。

現在、区内6駅7か所に設置しており、2,700台の自転車を供用している。

〔駅周辺の放置自転車等の状況〕

各年5月調査



※：午後調査については、27年度以前は14時前後、28年度以降は16時前後に実施

## 〔各駅における放置自転車等の状況〕

29年5月調査

駅名	放置台数	
	午前	午後
江古田	62	130
桜台	93	115
練馬	62	141
豊島園	21	47
中村橋	90	177
富士見台	19	62
石神井公園	28	108
大泉学園	42	104
大泉バス停(※)	26	24
保谷	2	5
上井草	7	6
上石神井	20	58
武蔵関	46	82
東武練馬	50	80
小竹向原	12	10
氷川台	7	19
平和台	7	22
地下鉄赤塚	38	57
新桜台	4	2
光が丘	34	41
練馬春日町	9	17
練馬高野台	11	58
新江古田	5	7
計	695	1,372

※：大泉バス停とは、西武バスの都民農園・大泉風致地区・大泉郵便局前バス停を指す。

## ●私道整備助成制度

生活環境向上のため、私道を舗装または再舗装する場合や、私道に排水施設（下水）を設置する場合の工事費用の一部を助成している。

28年度は舗装19件、舗装面積1,464㎡を助成した。

## 〔ねりまタウンサイクル利用状況〕

29年5月調査（単位：台）

名称	貸付台数	会員数	利用台数		当日利用台数(※3)	
			正利用(※1)	逆利用(※2)	5月中総台数	1日当たり平均
練馬	400	316	173	143	946	30
東武練馬	200	142	98	44	351	11
石神井公園	400	347	259	88	761	25
上石神井	400	296	239	57	308	10
大泉学園駅北口	600	688	495	193	355	12
大泉学園駅南口	500	531	445	86	447	14
練馬春日町	200	122	99	23	342	11
計	2,700	2,442	1,808	634	3,510	113

※1：正利用は、自宅から駅までの利用台数

※2：逆利用は、駅から会社や学校等への利用台数

※3：当日利用台数は、非会員の利用者による一回利用の利用台数